

---

# 小説株式会社

?

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

小説株式会社

### 【Nコード】

N2602I

### 【作者名】

？

### 【あらすじ】

小説を書くための株式会社。こんな会社あったらやだなー。あう  
I。

小説株式会社

作・ごはんライス

まったく、ライスは困りに困っていた。連載小説が週に8本。読みきりの短編小説は月に50本。書き下ろし長編小説も年に6冊書かねばならない。やめたい。死ぬ。

しかし、ライスは小説株式会社の作家課に所属していた。もしいやなら首にすると課長に言われた。課長は月に2本書けばいいからラクなもんだ。これで給料が倍なのだから呆れる。

もつとも、課長のその2本はチヨー人気で、映画化されたり、シリーズ累計1000万部だったりする。太刀打ちできない。確かにライスの小説はつまらないので、数で勝負するより仕方ない。たまに売れても翌日にはブックオフで105円という時代だ。文句ばかり言ってるで過労死する前に餓死する。

しかし、さすがに倒れた。病室で課長が言う。

「しょうがないヤツだなあ。オレが若い時は月に5000枚書いてたぜ。書かせてもらえるだけ幸せじゃねえか」

ライスは情けなくて涙が出てきた。

「でもな。オレ実はお前をちよつと買ってるんだよ。最近の若いやつはカネのために書いてるけどお前はカネを要求せん。会社にとつて都合がよ、いや、なかなか小説を愛してるじゃないか」

ライスは小遣いをくれるのかなと思った。

「お前に部下をつけてやるよ」

ライ스가退院してから、社内にあるライス専用の書斎に三人の若者と一人のじいさんが来た。

一人は、アイデア課の山下。アイデア課というのは小説のアイデアを出す課だ。

一人は、プロット課の吉田。アイデア課が作成したあらすじやキャラクター表を元に詳しいストーリーを作っていく課である。いわば、執筆の前段階を担当する。

一人は、執筆課の木村。漫画や映画のノベライズを担当する課である。時に連載途中で死んだ作家の跡を継ぎ、連載を完結させる仕事をすることもある。

「おじいちゃん。あなたは」

「マッサージ課の西尾ですじゃ」

ああ。そんな課もあったな。作家はとにかく、長時間机に向かっているから体が硬くなる。それをときほぐす課というわけか。

ライスの仕事はラクになった。まず、山下が、アイデア課のメンバーたちと会議をし、よいアイデアをたくさん出す。ライスは出されたアイデアを選ぶだけでいい。

そして、選んだアイデアを吉田に渡す。吉田はなかなか仕事のできる若手で二日もあれば、プロットを作ってしまう。しかも、むちゃくちゃ面白い。ライスはそれを渡され、執筆を開始する。

しかし、人の考えたアイデアというのはいまいち書く気がしない。20枚くらいで放り投げ、木村にあとは任す。すると木村は素晴らしい文章で作品をまとめる。

ライスはそれらの作業を眺めながら、みなが必死に仕事する姿をぼんやり眺めながらソファに寝転び、西尾さんに腰をもんでもらっている。

「なんてすばらしいんだ。作家人生は。うほほほ」

しかし、一ヶ月で飽きた。オレ、することないやんけ。しかも、怠けすぎたせいか、少し太った。

「ダイエツトしないとな」

そう思ってた矢先、課長にスタント課に行けと辞令が下った。

スタント課というのは忙しい作家の代わりに取材を行う課だ。作家がエジプトの話を書きたいと思ったらエジプトに行き、らくだに乗ったりする。スパイの話が書きたいといえば、スパイになり敵国

に忍び込む。花屋さんのお話を書きたいと思えば、花屋にバイトする。不倫の話を書きたいと作家がいえば、不倫したくなくても不倫をする。独身ならわざわざ結婚をして不倫をする。

そうしてまとめあげた体験談を作家に渡すのだ。

今回、ライスは、うなぎやという女性作家に「あたし、イラクをテーマに書きたいわ」と言われた。正直、殺してやるうかと思ったが、このうなぎやの書く小説は売れている。会社の利益を上げてる。逆らえば解雇されるだろう。単身イラクに乗り込んだ。こういう時、独身者は気楽だ。悲しむ人がおらん。

果たしてライスは痩せたのか？

はたまた、自爆テロで死んだのか？

それは読者の想像に委ねるとしよう。

（後書き）

つまらないのに依頼多すぎやろ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2602i/>

---

小説株式会社

2010年12月25日02時11分発行